



海軍技師恒川柳作外一名依願
 免本官ノ件
 名謹テ奏ス
 明治三十九年八月二十一日
 内閣總理大臣侯爵西園寺公望呈

内

閣

内閣書記官 三七八

明治卅九年八月十七日

内閣書記官

八月廿二日

内閣總理大臣 望

内閣書記官長 長

海軍技師 恒川 柳作

長崎縣警視 松崎 惟氏

依願免本官

裏面白紙

277

依願免本官

奏
右
謹
不

海軍技師恒川柳作

明治三十九年八月十六日

海軍大臣齋藤

實



海軍

神效証書

海軍大臣 恒川柳作

右者 屢に患胃之弱、且心健忘、不適、少力、
 氣、惟如土、患化、之更、之、
 吾等、傳、麻、質、好、
 生、
 病、加、之、
 未、
 未、
 未、

海軍大臣 恒川柳作

海軍 連三

海軍

豆

長崎縣警視松崎惟氏
依願免本官

右文官分限令第三條第一項第二號
前段に依り謹テ奏ス

明治三十九年八月十六日

内務大臣原 敬



内務省

めくれず

241

裏面白紙

辞職願

私儀多年奉職罷在候處昨年来別紙醫師
診新書、通り病氣、罹リ治療相加、候得共
症萬全快、至、到底難堪職務現症、候間
職務御免被下度此既奉願候也

明治廿九年九月十日

長崎水上警察署長

長崎縣警視松崎准氏

内閣總理大臣侯爵西園寺公望王殿

第五〇號

診斷書

長濱縣警視

松崎惟氏

昭和四年四月廿五日

體質

中等

病名

慢性喉頭及氣管支炎

原因

氣變、土濕、素因之關

症候

咳嗽、咯痰、喉痛、時々聲啞、發熱

喘喘、乾性水泡音、聽之食欲不

振、身體衰弱、精神抑鬱、記憶減

乏等、症之呈又

一

弘立十字南完

一字前

経過

昨年十月以来本症ニ罹リ發歇常ナ

ラス荏苒ホセス

處方

プロタルゴン液冷布、食塩重曹水吸

氷入、汝土加量、耳屋個見、換溼布根浸、

杏仁水等、内服、

豫後

長時日ヲ經サレハ平癒シ難シ

決定

到底劇職ニ堪ヒカレモト認ム

右之通

相違無之也

明治廿九年八月十一日

長崎市上筑後町廿五番地平民

醫師 松本守学 初院長 大橋 純



海軍 百三號

海軍技師恒川柳作依願免本官、

件別紙上奏書進達又

明治三十九年八月十六日

海軍大臣齋藤實



海軍

内務大臣 甲第五六三號

別紙長崎縣警視松崎惟民轉任ノ件

上奏書進達
明治三十九年八月十六日

内務大臣原

敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

裏面白紙

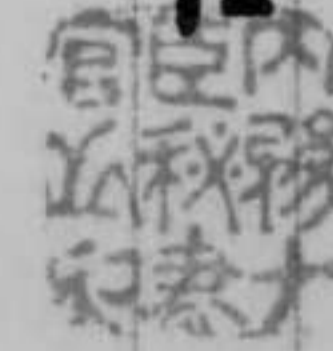
245

丙午年七月三十一日

別紙長寄縣聲視杉寄惟民
免官ノ件ハ至急ヲ要ニ抄旨可
成速ニ發表ホホ標ハ計
本為以及市依頼也

丙午年八月十日

内務大臣 祕書官



内閣書記官

一

内務官

裏面白紙

246